

■ パブリックコメントにかかる意見等の概要と市の考え方

案 件 名 : 南あわじ市子ども屋内遊び場施設基本計画(案)

募集期間 : 令和8年6月10日(水)～令和8年6月24日(水) / 提出件数 : 20件(5人)

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
1	P.48～53	利用者数の需要予測における根拠が不十分であり、従来の市有施設と同様に、開設後の利用実績が低迷する懸念が拭えません。	本施設は、収益性や利用者数のみを目的とした施設ではなく、子どもたちが天候に左右されることなく安全・安心に遊べる環境を確保するとともに、子育て支援、多世代交流及び地域活性化の推進を目的として検討を進めています。 想定利用者数につきましては、類似施設の実績を参考に試算しておりますが、あくまで現時点での想定値であり、実際の利用状況は施設内容や運営方法等により変動するものと考えております。 一方で、本施設の整備にあたっては、利用者数のみで事業効果を判断するのではなく、子育て環境の充実、子どもの健全育成、地域コミュニティの形成など、公共施設として期待される多面的な効果を総合的に勘案することが重要であると考えております。 今後も、基本設計や運営手法の検討を進める中で、市民ニーズを踏まえた魅力ある施設づくりに努めるとともに、持続可能な運営について検討を進めてまいります。
2	P.6 P.27～29 P.38～40	移住者です。おいしくて、安全安心の地元野菜や加工品が買えるスーパーがほしいです。そういった食材が食べれるカフェ、レストランも併設されてると、いいと思います。地元の高齢者、家族がゆっくりできる、ちょいおしゃれな空間だと、さらにありがたいです。	本計画では、子どもだけでなく保護者や祖父母世代など多世代が利用できる施設を目指しており、市民ワークショップにおいてもカフェや飲食、地域製品の販売機能などの提案がありました。今後、施設の基本設計や運営方法の検討を進める中で、地域資源の活用や滞在

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
			性の向上について参考とさせていただきます。
3	P.14～15 P.38	【1. はじめに】 南あわじ市子ども屋内遊び場施設基本計画案について、意見を提出します。まず、本施設が「子どもが安心して遊べる屋内施設」として整備されることには、大きな意義があると感じています。雨の日、猛暑日、寒い日などにも、子どもたちが安全に体を動かし、のびのびと過ごせる場所は、南あわじ市にとって必要な施設だと思います。	本計画では、近年の猛暑日の増加など気候変化を踏まえ、天候に左右されず安全・安心に遊べる環境の確保を目的としております。今後も子どもたちが健やかに成長できる施設づくりを進めてまいります。
4	P.38～40	【2. 子どもだけでなく、子どもを取り巻く人まで含めた設計を】 一方で、この施設を本当に市民に長く利用される場所にするためには、対象を「子ども」だけに限定して考えるのではなく、子どもを連れて来る保護者、孫を連れて来る祖父母、地域で子育てを支える市民、そしてこれから南あわじ市で暮らす可能性のある若い世代まで含めて設計することが重要だと考えます。子ども屋内遊び場は、子どものための施設であると同時に、子育て世帯の日常の居場所であり、祖父母世代との交流の場であり、地域の人に関わる場であり、さらには移住・定住を考える人に「南あわじ市で子育てしたい」と感じてもらうための入口にもなり得ます。そのため、本施設については、単独の遊び場として整備するのではなく、「子どもを中心に、親・祖父母・若者・地域住民が自然に集まり、南あわじ市の食・仕事・学び・交流につながる拠点」として位置づけていただきたいです。	ご意見のとおり、本施設は子どもだけでなく、保護者や祖父母世代、地域住民など多様な世代が利用できる施設として検討しております。また、機能面に関して、ご提案のあった地域交流や滞在機能の充実についても市民の皆様の声を丁寧に向いながら検討を進めてまいります。
5	P.32～37 P.38～40	【3. 南あわじ市の現状課題と可能性】 現在の南あわじ市には、雨の日や猛暑日でも子どもを安心して遊ばせながら、保護者や祖父母も一緒に滞在できる場所が十分とは	本計画の整備方針のひとつとして「地域資源が活用され、地域の振興に寄与する施設」を掲げています。また、市民ワークショップやマーケットサウンディング

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
		言えないと感じています。また、若者や子育て世帯が日常的に立ち寄り、買い物・食事・読書・交流が自然に生まれるような場所も限られています。一方で、南あわじ市には、農産物・畜産物・水産物、料理や加工品をつくる市民の力、地域で働きたい人材など、豊かな資源があります。今回の子ども屋内遊び場施設は、これらの地域資源を子育て支援と結びつける大きな機会だと考えます。	でも、木育、地域展示、職業体験などの地域資源を活用した体験・交流機能に関する提案がありました。今後の施設づくりを検討する上で参考とさせていただきます。
6	P.27～30 P.38～40	【4. 日常的に利用される施設にするための機能】 特に大切だと考えるのは、この施設を「親子が遊びに来る場所」だけで終わらせず、日常的に利用できる場所にすることです。子どもを遊ばせるだけでなく、保護者が少し休める、祖父母が孫と一緒に過ごせる、地域の人が買い物や食事で立ち寄れる、そのような日常の導線の中にある施設にすることで、継続的に利用される場所になると思います。具体的には、南あわじ市の特産である野菜、肉、魚などを扱う小さなマーケット機能を検討していただきたいです。新鮮な地元の食材が並び、子育て世帯が日々の買い物にも利用できるようになれば、遊び場目的だけでなく、日常的に足を運ぶ理由が生まれます。また、市民の料理上手な方や地域事業者がつくる加工品を販売できる場にすれば、地域経済の循環にもつながります。あわせて、親子で利用しやすい飲食機能も重要だと思います。レストラン、フードコート、カフェなどがあれば、遊び場の前後に食事や休憩ができ、滞在時間も長くなります。地元食材を使ったメニューにすることで、南あわじ市らしさを感じられる施設にもなります。	市民ワークショップでも、飲食スペースや保護者の休憩スペースなど、長時間滞在を支える機能への要望が多く寄せられました。これらを踏まえ、本計画において、飲食・物販機能を導入機能の一つとして整理しております。ご提案いただいた地域製品の販売や飲食機能については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。
7	P.28～29	【5. 本・読書・若者の居場所】 また、本屋や読書スペースのような機能も、ぜひ検討していただきたいです。子ども向けの絵本だけでなく、若者や大人も手に取	市民ワークショップでも絵本図書館や読み聞かせスペースなどの意見が寄せられ、本計画において、これらの静的な利用機能についても必要なコンテンツとし

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
		りたくなる本や雑誌がある空間は、地域の文化的な居場所になります。本に触れながら親子が過ごし、若者が立ち寄り、大人も一人で過ごせるような空間は、南あわじ市にとって大切な公共的価値を持つと思います。ここ数十年で南あわじ市にとって大きく変わったことの一つに、大学ができ、島外から若い世代が南あわじ市に来てくれるようになったことがあります。吉備国際大学の学生をはじめ、島外から来た若者が南あわじ市で学び、暮らすことは、市にとって大きな可能性だと思います。しかし、島外から来た学生にとって、地域の幅広い世代の市民と自然に関わり、南あわじ市に愛着を持つ機会は、まだ十分とは言えないのではないのでしょうか。以前、大学生が「夕方5時以降に集まる場所がない」と話しているのを聞いたことがあります。これは単なる不便ではなく、若者がそのまちに愛着を持てるかどうかに関わる大切な課題だと感じました。若者にとって、授業やアルバイト以外の時間に、本や雑誌を読みながらコーヒーを飲んだり、友人と気軽に話したり、ひとりで過ごしたり、地域の人と自然に出会ったりできる場所は、そのまちへの愛着を育てるうえでとても大切です。	て整理しております。また、曜日、時間帯などに応じて、様々なバックグラウンドを持つ方々が利用できる施設となるよう、今後も市民の皆様の声を丁寧に伺いながら検討を進めてまいります。
8	P.6 P.29～30 P.56～61	【6. 時間帯で役割を変える施設へ】 そのため、この施設には、子どもが遊ぶ時間帯だけでなく、夕方以降にも大学生や若者、地域住民が立ち寄れるカフェ・読書・交流スペースのような機能を検討していただきたいです。日中は子どもと子育て世帯、祖父母世代が中心に利用し、夕方以降は学生や若者、地域住民が使いやすい空間にするなど、時間帯によって柔軟に役割を変えることもできると思います。たとえば、夕方以降は、本や雑誌を読めるラウンジ、地元食材を使った軽食や飲み物を提供するカフェ、学生が勉強や打ち合わせをできるスペース、地域の人と若者が交流できる小さなイベントなどを行える場	本計画では、利用者ニーズや社会情勢の変化に応じて柔軟な施設運営が可能となるよう検討を進めています。ご提案いただいた時間帯による利用方法の工夫や交流スペースの活用については、今後の運営手法の検討において参考とさせていただきます。

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
		にすることで、施設の利用価値は大きく広がります。	
9	P.30～37	【7. 大学生・若者と地域をつなぐ仕組み】 また、吉備国際大学の学生などが、子ども向けの読み聞かせ、学習支援、イベント運営、地域食材を使った企画、情報発信などに関われる仕組みがあれば、若者にとっても地域参加の入口になります。子どもたちは若いお兄さん・お姉さんと出会い、学生は地域の子育てや暮らし、農業・食・文化に触れ、地元の市民は若者の感性や力を受け取ることができます。こうした世代間の循環が生まれれば、単なる施設整備にとどまらず、南あわじ市の未来を担う人材を育てる場にもなると思います。島外から来た学生が、卒業後も「また南あわじ市に関わりたい」「いつか戻ってきたい」「この地域の未来に関わりたい」と思えるような接点を、まちの中につくることは、とても大切だと考えます。	本計画では、市民・民間事業者との連携を重視しており、子ども向けイベントや学びの機会、多世代交流などを通じた地域との関わりについても、当施設の役割として期待しております。大学生をはじめとした若い世代との連携については、今後の運営段階での参考とさせていただきます。
10	P.56～61	【8. 多様な人が働き、関われる場へ】 さらに、この施設は、多様な人が働き、関われる場にもなっていてほしいです。地元の高齢者、子育て中の父母、若者、障害のある方、一般的な就労が難しい方などが、それぞれの得意なことを活かして関われる運営体制を検討していただきたいです。売り場、飲食、読み聞かせ、清掃、案内、加工品づくり、イベント運営、情報発信など、関わり方を細かく分けることで、多様な人が無理なく参加できる可能性があります。	本施設の運営にあたっては、多様な主体が関わることにより、地域とのつながりや施設の魅力向上につながるものと考えております。ご提案いただいた内容につきましては、今後の管理運営体制の検討における参考とさせていただきます。
11	P.6 P.29～30 P.38～40	【9. 基本計画に明記していただきたいこと】 本施設は、子育て支援施設であると同時に、移住・定住促進、地域産業の発信、市民の雇用、若者の居場所づくり、世代間交流にもつながる大きな可能性を持っていると思います。参考イメージ	ご意見の趣旨につきましては、本計画における多世代交流や地域とのつながりを重視する考え方と方向性を同じくするものと考えております。一方で、具体的な導入機能や運営内容については、今後の基本設計と管

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
		としては、地域密着型のスーパー、食品セレクトショップ、カフェ、書店が持つ魅力を組み合わせたような、「買う・食べる・遊ぶ・読む・学ぶ・集う」が一体となった場所です。ただし、大型商業施設を目指すという意味ではありません。南あわじ市の人、食、農、水産、暮らしの魅力が自然に伝わる、温かい日常拠点を目指してほしいという趣旨です。基本計画の中に、次の視点を明記していただくことを希望します。①子どもだけでなく、保護者、祖父母、若者、地域住民も日常的に利用しやすい施設とすること。②南あわじ市の農産物、畜産物、水産物、加工品を活かした物販や飲食機能を検討すること。③本や雑誌に触れられる読書・学びの空間を設け、若者や大人も立ち寄れる文化的な居場所とすること。④夕方以降に大学生や若者が安心して集まれるカフェ・読書・交流スペースを検討すること。⑤日中は子育て世帯向け、夕方以降は若者や地域住民向けなど、時間帯によって柔軟に使える施設設計にすること。⑥吉備国際大学の学生など、島外から来た若者が地域と関わり、南あわじ市に愛着を持てる仕組みを検討すること。⑦学生が読み聞かせ、学習支援、イベント運営、情報発信、地域食材を活かした企画などに参加できる余地を持たせること。⑧地元の高齢者、子育て中の父母、若者、障害のある方など、多様な人がそれぞれの得意な形で働き、関われる運営体制を検討すること。⑨移住・定住を考える子育て世帯にとって、「南あわじ市で子育てしたい」と感じられる拠点にすること。⑩子ども屋内遊び場を、単独の遊び場ではなく、南あわじ市の食、仕事、学び、交流、若者の居場所づくりにつながる未来拠点として位置づけること。	理運営計画の中で検討する事項であることから、計画本文の修正は行いませんが、今後の検討における参考とさせていただきます。

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
1 2	P.6 P.56～61	【10. 結び】子ども屋内遊び場施設は、子どものための施設であることはもちろんですが、子どもを中心に、その周りにいる大人、若者、地域の人たちが自然に集まる場所にする事で、より大きな価値を持つ施設になると思います。南あわじ市らしい、子ども、親も、祖父母も、若者も、地域の人も元気になる施設になることを期待しています。	本計画では、子ども屋内遊び場を中心としながら、保護者や祖父母世代をはじめとする多様な世代が利用し、交流できる施設を目指しております。また、市民ワークショップや民間事業者へのヒアリングにおいても、地域とのつながりや多世代交流の重要性が示されております。これらを踏まえ、今後は、子どもたちが安全・安心に遊べる環境の確保を基本としながら、地域に親しまれ、多くの方々に利用される魅力ある施設となるよう、基本設計及び管理運営方法の検討を進めてまいります。
1 3	P.15 P.20～29 P.30～37	1. WS のアイデアを進めるということの懸念と専門的知見の導入 WS は「市民の皆さまとともに創り上げていきたい（広報：令和7年8月号）」ということであったが、WS 初回に参加した際に、WS のゴールイメージが施設内のゾーニングということを伝えられました。本 WS では、あくまでも校舎などに何（遊び場、コンテンツなど）を入れるかということだけです。 WS 参加した市民は、地域づくりや廃校利活用、施設運営の専門家や研究者ではありません。WS で出た意見や案はあくまで「アイデア」であり、それを「市民のニーズ」という言葉を加えることで、そのまま事業の「基準」としてスライドさせて進める手法には強い危機感を覚えます。 1) 14 人程度の参加者で決められた WS のなかでの意見について「市民のニーズ（声）があった」ということ自体を大義名分とし、専門的な検証を怠ったまま巨額の事業を突き進めることは、適正な手法なのでしょうか。 2) 本基本計画（案）の策定にあたり、建築士ではなく、地域活	1) 2) 基本計画の策定にあたっては、市民ワークショップによる意見収集に加え、類似施設の事例調査や民間事業者ヒアリング等を実施し、総合的な検討を行っております。 また、本計画で示している配置プラン（A～C 案）は施設整備の方向性を整理したものであり、現時点で整備内容が確定しているものではありません。 今後の基本設計段階において、類似施設の運営事業者などの専門的な知見を伺いながら施設規模や機能、整備手法、事業費、維持管理運営等について詳細な検討を行う予定です。

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
		性化や廃校利活用の専門家（大学教授、研究者、民間プロデューサー等）による学術的・客観的な調査やアドバイスは、具体的に受けたのでしょうか？もし、現時点で上記のような専門家の監修・調査を経ていないのであれば、今後どのフェーズで専門家の知見を導入し、市民のアイデア（素人案）の実現可能性や採算性を検証する計画なのかご教示いただけますでしょうか。	
1 4	P.29	2. P.29(2)「イチオシ機能」の位置づけと、WS 当日での説明との乖離について 当該ページには「市民のニーズを反映しているものとして位置付けて整理した」とありますが、WS 当日の運営側の説明では「これまでの広がった内容についてすべてを盛り込むことはできないため、このなかでもより大切だと思うことを絞って、設計事業者に向けて思いを伝えてほしい。」という趣旨であり、「市民のニーズを反映しているものとして位置付けて」という大きな趣旨の話は一切なかったと記憶しています。 WS 当日の「設計者への思いの伝達」という説明と、本計画書の「市民ニーズの反映」という位置づけに乖離がある点について、どのような整合性・認識のもとで記載されたのか、見解を伺います。 「イチオシ機能」は、具体的な配置プラン（プラン A～C）にそのまま反映され、巨額の概算事業費の積算根拠（基準）となっています。	「イチオシ機能」は、市民ワークショップ参加者が特に自身の意見として「推したい機能・部屋」として、ご提案いただいたコンテンツを整理したものであり、ワークショップにおける意見の傾向を把握するための資料として整理したものです。 設計検討に活かすためのものとして実施しており、本計画における位置付けと異なるものではないと考えております。 なお、本計画においては、市民ワークショップの結果のみを根拠として施設内容を整理したものではなく、民間事業者ヒアリング、先進事例調査等も踏まえながら総合的に施設整備の方向性を整理しております。 また、ご指摘の『具体的な配置プラン（プラン A～C）』がそのまま事業化されることなく、次工程における基本設計のフェーズにおいて、改めて、市民の皆様のご意見や類似施設の運営事業者の専門的な知見を踏まえながら、配置プランや導入機能について検討してまいります。

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
1 5	P.29	3. P.29(3) 分析結果について 最初から「屋内遊び場」というお題が出されている場において、屋内で身体を動かす遊びのアイデアが出るのは極めて自然なことです。それをわざわざ「コアニーズとして確認された」「基本的なニーズとしてとらえていく必要があります」などと記載することは、市民のWS声を都合よく利用して、行政側の方針の正当化につなげているような違和感を覚えます ※1. 2. 3の質問内容につきましては、「あくまで第3章（WS）の中における検討であり、局所的な総括・分析結果である」との趣旨でご回答されると、計画全体の一貫性が失われてしまいます。市民として、回答の矛盾を指摘せざるを得なくなりますので、計画の全体における整合性が保たれるような、納得感のあるご回答をお待ちしております。	ご意見のとおり、市民ワークショップは子ども屋内遊び場をテーマとして実施していることから、遊びに関する意見が多く出されることは自然な結果であると認識しております。 第3章の分析結果は、市民ワークショップを通じて把握した意見の傾向を整理したものであり、施設整備の方向性を検討するための基礎資料の一つとして位置付けております。また、本計画における施設整備の方向性は、市の現状や課題、市民ワークショップ、民間事業者ヒアリング、先進事例調査等を総合的に踏まえ整理したものであり、市民ワークショップの結果のみを根拠として決定したものではありません。そのため、第3章の分析結果と計画全体の考え方に矛盾はないものと考えております。 なお、本計画は施設整備の方向性を示したものであり、今後の基本設計では、市民ワークショップ等を実施しながら専門的知見も踏まえ、施設内容を具体化してまいります。
1 6	P.48～53	4. 概算事業費について 非常に巨額な資金を投入する事業です。当初からフルパッケージで整備するのではなく、優先度や順番を考慮して段階的に整備していくということについては、検討は行われたのでしょうか。検討されたのであればその内容を、検討されていないのであればその理由をそれぞれ説明してください。	段階的な整備についても、事業費や施設機能、整備手法等を踏まえた有効な手法の一つであると認識しております。 本計画は施設整備の方向性を整理することを目的としていることから、現時点では整備手法を決定する段階には至っておりません。今後の基本設計では、市民ワークショップ等を実施しながら施設内容を具体化するとともに、最適な配置プランへ絞り込みを進めてまいります。その過程において、施設機能や事業費、財

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
			源等を総合的に勘案し、段階的な整備を含め、効率的かつ効果的な整備手法について検討してまいります。
1 7	P.6 P.14～15 P.56～61	5. 観光客との棲み分け（島民優遇） 淡路島は人気の観光地であり、雨の日の遊び場が少ないため、週末や雨天時には島外からのファミリー層がたくさん来ることが想定されます。それ自体は賑わいとして嬉しい反面、地元の住民が「混んでいて入りにくい、使いにくい」と感じて足が遠のいてしまう懸念があります。 本施設は、計画の背景にある通り『南あわじ市の子育て環境の充実』が主目的であると認識しております。南あわじ市民、あるいは淡路島内の島民が気軽に普段使いできるように、例えば「島民の施設利用料は無料や半額以下にするなどの優遇措置」や「地元優先枠」などを基本計画の段階から視野に入れていただきたいですが、今後の検討に含まれていますでしょうか。	本施設は、南あわじ市の子育て環境の充実を主な目的として整備を検討しております。 利用料金や利用条件等の詳細につきましては、今後の管理運営計画の中で検討してまいります。市民が利用しやすい施設となるよう、他施設の事例等も参考にしながら検討を進めてまいります。
1 8	P.38～40 P.52～61	6. 概要版のメインターゲットに「本施設を利用する範囲は基本的に未就学児から小学生とその保護者及び地域住民とする。」と記載されていますが、この計画書には、地元住民のことについてあまり記載にないと思います。体育館や各教室など学校という施設を活かして、地域の子育て団体や、部活動の民間移行後の団体、地域の文化クラブなどが借りやすい場所にしてほしいなどの意見もあったと思いますが、今後、地域の方々との意見交換の場などは、具体的に設けられる予定がありますでしょうか。	今後予定している基本設計において、市民ワークショップ等を実施し、市民の皆様の意見を伺いながら施設内容の具体化を進めていく予定です。 引き続き、対話を重視し、市民共創のもと検討を進めてまいります。
1 9	P.56～61	7. 今後の「運営主体がどれだけ本気で取り組むか（どのような事業者に運営を委ねるか）」にかかっていると考えます。今後のWS等の場でも、この運営のあり方について市民とともに深く議論できる機会が保障されることを切に願います。	ご意見のとおり、本施設の魅力や持続可能性を確保するためには、管理運営体制が重要であると考えております。 今後の基本設計及び管理運営計画の検討において、

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
			市民意見や民間事業者のノウハウ等も踏まえながら、持続可能な運営体制の構築に向けて検討を進めてまいります。
20	P.14～15 P.52～61	旧倭文中学校が活用され、子どもの室内遊び場へと変わること、楽しみにしております。その上で、今回読んでみていくつか感じたことを記載いたします。①屋内遊び場に意義を感じる 私は、6歳と0歳の子供がいます。洲本市のエスブリックは、6歳の子どもの友人たちと保護者とよく利用してきました。夏の過酷さが増すばかりの中で、屋内遊び場が島内に増えることには意義を感じます。エスブリックは、無料で、管理が行き届いており、立地や設備の面で子どもが放課後に集いやすく、保護者として集わせやすい。(ただし、小さな子どもと大きな子どもの区分けがもう少し必要だと思う) 公園のようなものだと考えるなら、市内や島内の子供達が利用しやすいように、価格については無料、あるいは何らかの方法を検討してもらいたい。②基本計画案が、案というよりも報告書・今回資料を見たのですが、まず意見しにくい書類だと感じました。というのも、3案出て、ここまでどういった過程を経たかはわかるものの、利用者としての具体的な利用イメージが持ちにくい。パブコメを求める段階なので、市民の素朴な意見を盛り込むワークショップなどを経た3案を踏まえた上で、専門家や行政職員たちによる妥当性や採算性などしっかりと加味して、その上で練られた市の方針(案)が1つ提示されているかと思ったのですが、ない。3案が示されている。何か意図があった上で、この段階で、あるいはこの形でパブコメを募集されているかと思うので、意図をお示してください。現状、まだほとんど何も決まってきたくないように見えてしまうし、今回パブコメを募集していることで、決まってきた時にはもうパブコメも募集さ	本計画は、近年の猛暑や天候の変化に対応し、子どもたちが安全・安心に遊ぶことができる環境の充実に目的としております。 また、本計画は施設整備の方向性を整理することを目的として策定するものであり、現時点で施設内容や配置計画を確定するものではありません。そのため、市民ワークショップや民間事業者ヒアリング等で得られた意見を踏まえ、施設整備の可能性として複数の配置プランを示しております。 ご指摘のとおり、施設の具体的な利用イメージや市が目指す施設像については、より分かりやすく示していくことが重要であると考えております。今後予定している基本設計において、市民ワークショップ等を実施しながら施設内容の具体化を進めてまいります。 また、計画策定段階だけでなく、施設整備や管理運営の検討においても、市民や利用者の意見を取り入れることは重要であると認識しております。特に子どもの視点については、基本設計や管理運営方法の検討に反映するとともに、開設後においても利用者や子どもの意見を継続的に把握し、必要に応じて施設運営や環境の改善に努めてまいります。また、利用料金や管理運営方法につきましては、今後の基本設計及び管理運営計画の検討の中で、他施設の事例等も参考にしながら検討してまいります。

番号	該当頁	意見等の概要	市の考え方
		れないのではないかと不安に感じます。・基本計画案として読んだものの、調査結果や事例紹介が中心で、施設の具体的な利用イメージや重視する方針が分かりにくかったです。市としてどのような施設を目指すのか、利用者がイメージしやすい形で示してほしいと思います。意見するために、完成後の空間や過ごし方が想像できる資料があるとよい。そして、子どもや保護者がどのように過ごすことを想定しているのか知りたいと感じました。③子どもの居場所設計に、子どもの意見を反映させ続けるサポートを計画策定にあたり子どもにも意見を聞いていたことは良かったと感じました。その上で、民間事業者のヒアリングの中にもありましたが（これは施設設計の先の、運用の話なのでズレるかと思いますが）子どもの意見を計画段階だけでなく開設後も継続的に反映できる運営体制を整え、その結果を踏まえて空間や設備を改善できるよう、施設設計や予算に柔軟性を持たせていただければとも感じました。	
※「該当頁」は提出されたご意見に記載がある場合はその内容を記載し、記載がない場合は意見の趣旨から資産活用推進課において該当箇所を整理し、参考として追記しています。			
		以下余白	